

<金標準先物、FOMCに向けた過度な金融政策の織り込み・・・>



(出所：オアシス)

ブロード・セントルイス連銀総裁が「年内に政策金利を 3.5%前後に早急に引き上げる必要」と言及し、ボスティック・アトランタ連銀総裁、デーリー・サンフランシスコ連銀総裁などが「0.5 ポイントの利上げが実に堅実である論拠が見られる」と指摘し、またパウエル FRB 議長は IMF のパネル討論会で「5 月会合では 0.5%が選択肢に入るだろう」と述べ、ラガルド ECB 総裁も「短期的なインフレリスクは上振れ方向だ」と発言するなど、欧米当局者のタカ派発言を受けるなど、過度なインフレ高を織り込む金融政策から米国 30 年債の金利は一時 3%を超える動きを見せている。

特に「金利を生まない金」は妙味が低下し、金標準先物は 8160 円で高値が止まっている。また為替市場では、鈴木財務相などスピードの速い円安に懸念を表明するなど、円安効果も落ち着きを見せるなど、円建て金価格も高値追いの後押しが消えている。そのため目先ゴールデンウィークに開催の FOMC では、先週のパウエル FRB 議長の発言からも 0.5%の利上げは確実視されるなど、過度な金融政策を織り込む時間帯と見られ、今週は 7800 円へ向けた下値追いの値動きには注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では MACD がシグナルを下回り、RCI でも短期が長期を下回りながら下げるなど、オシレーターは弱気を示している。特に日足が 10 日移動平均線を下回るなど基調の転換を示すサインを見せており、下値追いの値動きの確率が高くなっている事からも 7800 円に向けた値動きに注意が必要である。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,101,000 円(2022 年 4 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 4 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>